

【総合的な学習の時間】 第4回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 テーマ設定

2. 本時の概要

本時は、2026年度中学2年生の「総合的な学習の時間」における第4回「テーマ設定」の授業である。

中学2年生の探究活動では、1年をかけて社会課題の解決に向けたポスター作成を行い、最終的には外部コンクールへの提出を目指している。これまでの活動で培った自身の興味・関心をもとに、本時では具体的な活動の核となる「チーム」と「テーマ」を決定するプロセスに入る。

本時の活動で特に重視しているのは、「多様性を活かした協働」と「問いの構造化」の二つである。異なる特性（A～Dタイプ）を持つメンバーが補い合うことでチームを強化する重要性を学び、自身の断片的な関心を体系的なステップを経て「探究テーマ」へと昇華させる。これは、社会においてプロジェクトを推進するための基礎的な力を養うことにつながる。

具体的な展開として、まずは興味関心の近さとメンバーの多様性を考慮したチーム編成を行う。次に、探究ノートを活用して自身の関心ワードを整理・分析する「STEP1～4」の活動を行い、中心となるテーマとキーワードを論理的に導き出す。さらに、宿泊行事「グリーンスクール」に向けた事前学習として、五感に訴える表現を用いたリポート作成の手法を学ぶ。

これらの活動を通して、チームとしての連帯感を高め、次回の具体的な調査活動や現地での体験をより深い学びへとつなげるための主体的な姿勢を養うため、本時を設定した。

3. 本時の目標

- **多様性を尊重したチームの構築:** 自身の特性（A～Dタイプ）を自覚し、異なる強みを持つ仲間と組むことでチームが強化される意義を理解した上で、主体的な対話を通じて適切なチーム編成を行うことができる。
- **論理的なプロセスによるテーマの具体化:** 探究ノートを活用し、自身の興味・関心を情報の収集・整理・分析のステップに沿って深めることで、社会課題と接続する明確な探究テーマとキーワードを自ら導き出すことができる。
- **五感を用いた発信スキルの習得と実地調査への意欲:** グリーンスクールでの実地調査を見据え、事実と体験を魅力的に伝えるリポート手法を学び、現地での調査・体験を価値ある情報として再構成しようとする態度を養う。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第4回

- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
 - 毎日新聞社編『記者トレ』毎日新聞社
- 生徒用配布プリント:
 - 探究ノート(デジタルファイル配信)
- 参考・引用文献:
 - 佐藤浩章編(2021)『高校教員のための探究学習入門 問いから始める7つのステップ』ナカニシヤ出版

5. 本時の展開(100分:50分×2コマ / 中間休憩10分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
5分	1. 本時の流れを把握する。 「チーム編成」から「テーマ設定」へと至る活動の全体像を確認する。	スライドを提示し、本時のゴールを明確にする。
20分	2. 多様性を意識したチームを編成する。 「3～4名」「A～Dのうち3タイプ以上を含む」「興味関心の近さ」を条件に、対話を通じてチームを結成し、報告する。	「異なる強みを持つ仲間がいることでチームは強くなる」という多様性の意義を強調する。 チームが決まったら、指定のフォームへの入力を促す。
25分	3. 探究テーマの具体化(STEP1～4)を行う。 探究ノートを活用し、自身の関心ワードから情報を整理・分析し、中心となる「テーマ」と「キーワード」を論理的に導き出す。	興味関心調査の結果(STEP1)を踏まえ、関連情報の収集(STEP2)、中心ワードの決定(STEP3)を段階的に踏むよう指導する。 「テーマのポイント」と「理由」を明確にするよう促す。
【2時限目】		
10分	4. グリーンスクールの目的と課題を確認する。 現地調査の意義を再確認し、「体験」を「記事」にするプロセスの重要性を理解する。	スライドを用い、文献調査だけでなく五感を通した「体験」に基づいた発信が必要であることを強調する。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
20分	5. リポートの表現技法を分析・習得する。 事実ベースの記事と音声リポートの違いを比較し、解説映像や音声データを視聴して五感に訴える表現の工夫を学ぶ。	音声データやテキストの読み合わせを通じ、どのような表現が「魅力的に伝える」ことにつながるかを考えさせる。
15分	6. リポート原稿の作成と相互発表を行う。 2人組ペアで役割を分担し、習得した技法を用いてリポート原稿を作成し、互いに発表し合う。	映像で視聴したアナウンサーの模範例を参考にさせながら、事実と体験を魅力的に構成するよう支援する。
5分	7. 次回に向けたまとめを行う。 本時の学びを振り返り、実地調査に向けた心構えを整える。	「森林と人との繋がり」というテーマに対し、現地で何を見聞きすべきか、意識を向けさせて締めくくる。